

### 住民第一の事業計画を推進し、住みたいと思つて貰える町作りを！

森 建二 議員



今会から、議場でダブルレットやノートパソコン等を質問時に限り持ち込める事とさせて頂きました。議会も新しいものを取り入れ、変わろうとしています。

本市の人口は、市によると2040年には現在の8割程度に減少するとの事。私達は、若い人達に移り住んで貰える様な、また今住んでいる方々には引き続き住み続けて頂ける様な魅力あるまちづくりを推進して行かなければなりません。数十年後には勝ち組と絞って進んで行きましょう。

○みどりが丘市有地を活用した出産・子育てを支援するまちづくり事業について

問 市有地について、出産・子育て・買い物など生活環境がコンパクトに集約された空間を形成するため、東洋大学公民連携専攻グループを支援事業者として、「みどりが丘市有地整備室」を設置して基本設計の策定に取り組んでいるものと思ひます。私も平成22年から、市有地へ住民福祉に資する施設の誘致活動を行って来ました。モデルプラン報告概要書においても「みどりが丘自治会住民アンケート」に概ね沿った概要となっており、住民福祉に供した計画だと思ひます。改めて御礼申し上げます。各施設計画の進捗状況について市民の目線で確認します。

答 当該計画については、東洋大学の支援を受け、産婦人科医院や民間企業、地元自治会等から、要望等についてヒアリング調査を実施し検討して参りました。3月に東洋大学から施設全体の機能や規模、配置計画、概算事業費、資金調達方法など、全体の事業スキームについて報告書、モデルプランが示された所です。報告書では、子育て支援施設を建設する他、周辺に商業施設や産婦人科を誘致する事で相互に機能を連携

### 防災・減災対策で安全な市政を誰もが安心して暮らせる市政を

秋葉 好美 議員



問 防災対策について、波乗り道路のかさ上げ工事が行われておりますが進捗状況を伺います。

答 波乗り道路のかさ上げ工事のうち、真亀ジャンクション南側において新たに地中埋設管の処理や、軟弱地盤対策が必要になったため、工事完了予定が7月末から12月末に延期されたところから伺っております。

問 津波避難タワーが完成され、日頃から防災公園として開放されているが安全性は図られているのか伺います。

答 タワーの安全面は、現時点では定期的にパトロールを実施すること、津波避難の原則について、徒歩、自転車、バイクとあります。到達時間までに避難できない方に限り自動車避難とありまして、あくまでも自動車での避難は遠くへ避難とのことだと思ひますが、確認の意味で伺います。

問 津波避難タワーが完成され、日頃から防災公園として開放されているが安全性は図られているのか伺います。

答 津波避難タワーが完成され、日頃から防災公園として開放されているが安全性は図られているのか伺います。津波避難の原則について、徒歩、自転車、バイクとあります。到達時間までに避難できない方に限り自動車避難とありまして、あくまでも自動車での避難は遠くへ避難とのことだと思ひますが、確認の意味で伺います。市が指定していません津波避難ビルや今回完成した津波避難タワーについては、徒歩、自転車等による避難の際に、けがをしたり逃げ遅れたらした場合に緊急的に避難するための施設であり、自動車による避難の場合は大網白里アリーナ等に避難することとなります。

### 安心・安全・活力あるまちづくりを目指して

山田 繁子 議員



問一 災害対策について、災害対応型カップ式自動販売機の導入について、災害時には、その初期段階及び避難所において飲料を確保することが重要であるが、近年、飲料自動販売機の中には、災害時に災害者に対し無料で飲料を提供することができない。東日本大震災の時の経験から生まれた災害対応型カップ式自動販売機は、電気と水道さえ確保されれば、災害時にお湯・お水特にお湯が無料で提供できる。赤ちゃんの粉ミルクの調乳や、アルファ米の調理等において大きなメリットがあると聞いています。本市においても避難所となつている大網白里アリーナ・大網病院等災害時に避難所や病院等においてお湯等飲料を提供できる災害対応型カップ式自動販売機の設置及び災害協定の締結を検討すべきであると思ひますが、いかがですか。

答 市では、3日分の飲料水を備蓄するほか、自動販売機の災害協定を締結するなど、飲料の確保に努めている。

提案のあった災害対応型カップ式自動販売機は、色々なメリットがあると伺っていることから、導入にあたっては研究していきたい。

問二 市民要望の強いバス停上屋の設置について、バス停大網病院前の設置はいつできるのか。

答 現在市内の団体から寄贈したい旨の話が出ており、市ではこの団体から寄贈を受ける方向で協議を進めている。県道が現在拡張工事中である事や、県の許可申請手続きに多少時間を要する。バス利用者の利便性向上に向けて早期の完成を目指し取り組んでまいります。

### 問を要している。設計を完了させ、早期に整備着手ができるように努めてまいります。

問三 ジュニア救命士の養成教育の取り組みについて、茨城県水戸市では全市立小学校33校の6年生約2200人を対象に救命活動ができる児童を育てる為にジュニア救命士の養成教育が行われている。修了者には市オリジナルの認定書を手渡しするなど市の消防本部も年1回担当される命を守る取り組みを工夫されている。本市は南消防署が新しく建て替えられております。南消防署の見学や南消防署員を講師に招いて定期的に研修等の講師として迎え入れた取り組みはいかがか。本市の現状をお聞きます。

答 学習指導要領に基づき小学校の体育保険領域、中学校の保健体育でそれぞれ実施しているが今後、消防署職員等による発達段階に応じた、出前講座的な学習の充実について協力を求めてまいります。

問四 今ある資源を活用した取り組みについて①河川敷の堤防を生かした堂右橋からバイパスまでのルートの活用について②小中川の河川敷バイパスから富田・南横川間を活用しサイクリングやウォーキングのできる遊歩道として活用整備について、堂右橋からバイパスまでの河川堤防の活用については、平成26年第4回定例議会では私は取り上げさせて頂きました。まずは舗装工事が終了してからとの答弁でしたがその後の状況をお聞きます。

答 山武士木から県庁本課へ舗装工事費についての予算要望を行っている。今後も早期に舗装工事を実施頂けるようお願いする。小中川については今後良好な維持管理に努めていくよう県へ要望していく。その他市長の事務報告より質問しました。